名古屋大学 大学院多元数理科学研究科

Newsletter

Graduate School of Mathematics, Nagoya University

Vol. 39
2018. DEC.

師走に入りすっかり寒くなり、年末年始に向けて何かと忙しい時期ですが、多元数理科学研究科の活動も引き続き活発となっています。今号では7月以降の様々な活動の様子をまとめてお届けいたします。

学生プロジェクト中間報告

国内でそして海外で活躍している皆さんの活動報告をお伝えいたします。今年も残り少なくなりましたが、今後の活躍も心から応援しています。

（生田裕子）

研究課題 因数分解法による逆問題の研究

代表者名 メンバー構成 古屋貴士(D1)

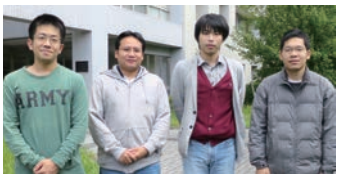
シンガポール研究集会時の懇親会

研究概要 この企画の目的は、因数分解法と呼ばれる手法を用いた逆問題の研究を発展させることである。2018年の8月にはシンガポール国立大学で行われた国際研究集会での発表をした。現在(2018年度後期)は、ドイツのカールスルーエ工科大学に滞在しており、因数分解法の提唱者である Kirsch氏 の下で指導を受けながら研究活動をしている。

研究課題 軌道の方法とユニタリ表現の分類

代表者名 嵐晃一(D2)

メンバー構成 嵐晃一(D2)、Edi Kurniadi(D3)
磯脇 勇太(D2)、森 翔汰(M2)



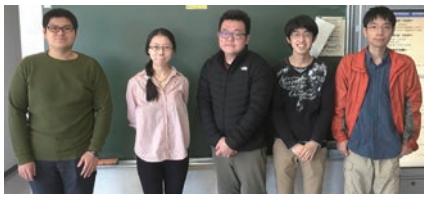
学生プロジェクトメンバー

研究概要 対称とは限らない有界等質領域上のベクトル値正則関数の空間に実現されるユニタリ表現(一般化最高ウェイトユニタリ表現)を構成、分類することを目標に研究をしています。

研究課題 Navier-Stokes方程式の適切性と解の性質

代表者名 大石健太(D1)

メンバー構成 大石健太(D1)
青山和寛(D1)
高橋知希(M2)
鄭大樹(M2)
孫琦雯(M2)



学生プロジェクトメンバー

研究概要 我々は8月の発展方程式若手セミナーと9月の東京でのMathematical Fluid Mechanics and Related Topicsに参加し他の研究者と意見交換を行った。今後は、12月の発展方程式研究会に出席、代表者は自身の結果を発表し、他の研究者と議論することで、学位論文に繋げる予定である。

研究課題 Nevanlinna theory of degenerate holomorphic curves and Nochka weights

代表者名 LIN Peiqiang(D2)

メンバー構成 LIN Peiqiang(D2)、YAMADA Hiroki(M2)、FUJII Kohji(M1)

研究概要 This project is to study Nevanlinna theory of holomorphic curves, especially degenerate holomorphic curves. In 1983, Nochka proved conjecture of H. Cartan about the second main theorem for degenerated holomorphic curves, using Nochka weight. And it is equivalent to the case non-degenerated holomorphic curves intersecting hyperplanes in subgeneral position. We get an alternative version of this theorem, according to the view of Ahlfors's paper. Moreover, we show that both two theorems are best possible.

福建師範大学での研究集会にて

研究課題 吹田予想と大沢-竹腰型L^2拡張定理に関連する研究

代表者名 菊池翔太(D1)

メンバー構成 菊池翔太(D1)、泉聖哉(M2)
Liu Shuheng(M2)

第24回複素幾何シンポジウムにて

研究概要 メンバー各々がセミナーや研究集会に参加し、最新の研究状況を把握するだけでなく、研究課題の解決に向けて一歩一歩前進しています。特に葉山シンポジウムや複素幾何シンポジウムでは先行研究されている研究者の方々と交流でき、非常に有意義でした。

研究課題 ゼータ関数の多種多様な研究

代表者名 遠藤健太(D1)

メンバー構成 遠藤健太(D1)、武田渉(D1)
齋藤耕太(M2)

セミナーの様子

研究概要 私たちは、これまでに「福岡数論研究集会」、「仙台広島整数論研究集会」、「解析的整数論とその周辺」などの研究集会に参加し、情報収集及び研究発表を行ってきました。いろいろな研究集会に参加することで、最新の話題に触れるだけでなく、様々な知見を得ることができました。

研究課題 多重ゼータ値とその応用

代表者名 梅澤瞭太(D2)

メンバー構成 梅澤瞭太(D2)
舘野荘平(D3)
早水遼(M2)
丹羽裕紀(M1)

第26回整数論サマースクールにて

研究概要 多重ゼータ値に関する国内外のいくつかの研究集会に参加し、情報収集や研究発表を行いました。特に、メンバー全員が参加した合宿制の集会、整数論サマースクール「多重ゼータ値」では、活発な情報交換を行うことができました。

研究課題 ゼータ関数と数論の新しい関係性について

代表者名 井上翔太(D1)

メンバー構成 井上翔太(D1)、岩田英人(D1)
小林弘京(M2)

セミナーの様子

研究概要 この学生プロジェクトは、「ゼータ若手研究集会の運営」、「メンバーの研究能力の向上」の2点を主なテーマとしています。これらを達成するための現在までの活動として、メンバーは「仙台広島整数論研究集会」や「八王子数論セミナー」などに参加して自己研鑽に励んでいます。また、ゼータ若手研究集会では例年、解析的整数論やそれに関わりのある分野の若手研究者の交流の場として貴重な研究集会となっています。メンバーはこの研究集会を今年度も若手研究者にとって実りの多い研究集会となるよう活動しています。

研究課題 定理証明支援への計算機の応用

代表者名 メンバー構成 藤井大輔(D1)

藤井大輔

研究概要 先の半年間ではお陰様で多くの研究集会に参加し情報収集及び発表を行うことができました。特に今夏オックスフォードで開催されたFLoCでは、チューリング賞を受賞されたアントニー・ホーア氏とお話できたことが印象に深く残っております。今後はシステム開発の成果発表に向けて邁進してまいります。

数学アゴラ、数学公開講座 ～今年度も開催～

毎年恒例の夏の「数学アゴラ」、秋の「数学公開講座」が開催されました。

今年度より講義を3日間から2日間の開催とし、1日で講演者1人の講義が完結する読み切り形式となりました。講義時間も1時間半から1時間に短縮され、まとまった時間がなかなか取れない方や、連続して参加が難しかった方などもさらに参加しやすくなりました。昨年度と同様、愛知県教育委員会による「知の探究講座」ともタイアップし、多くの高校生が参加しました。また、例年以上に教員や一般応募の方々にも足を運んでいただくことができました。

夏の「数学アゴラ」は8月8日（水）、8月9日（木）で行われ、夏休み中ということもあり、東海3県だけでなく県外からお越しの方もいらっしゃいました。10月20日（土）、10月27日（土）の秋の「数学公開講座」も「数学アゴラ」と同じ教員により講義が行われました。今年は高校単位でのお申込みも多く、先生が引率し参加される高校生も多くおられました。

各講義は多元数理科学研究科に所属する石井亮教授、植田好道教授がそれぞれ担当し、どちらも身近な話題をテーマに講義が行われました。参加者の皆さんはとても真剣に耳を傾けており、休み時間には積極的に質問をする姿も見られました。レジュメの最後には持ち帰りの演習問題がついており、自宅に帰ってからもじっくりと考えることができる内容になっていました。

また、講師として本研究科の博士後期課程の学生も参加し、質疑応答や知の探究講座受講生のサポートに努めました。参加者の皆さんが大学数学の一端にふれることで刺激を受け、少しでも魅力を感じて帰っていただけていればと思っています。

ご講演いただいた教員の皆様、参加者の皆様、講師の皆様、アルバイトの皆様、本講座を支援していただきました皆様へ感謝いたします。ありがとうございました。（西脇悠美子）

●講師の感想

「知の探究講座」受講生に対して講義内容の補足や発表への指摘、アドバイスなどを行いました。意欲的に知識を求める生徒たちに対して自分も足りない知識を調べつつ指導するのは大変でしたが、自分にとってもよい経験となりました。（藤谷拓哉（D3））

私たちは、主に「数学アゴラ」「数学公開講座」の受講者の質疑応答と「知の探究講座」における発表指導を行いました。特に「知の探究講座」では、質問の中でのちょっとした話題が発表テーマ決めのきっかけとなったりと、講師として大きなやりがいを感じました。（青木利隆（D2））

「数学アゴラ」は、高校生達にとっては早くから数学に触れることができる良い機会だと思いました。また、幅広い年齢層の方々が講座を受講しているのも印象的でした。「知の探究講座」では、参加されている高校生の自由な発想に驚かされることが多々あり、それは自分にとっても良い刺激となりました。（菊池翔太（D1））

植田 好道 教授

石井 亮 教授

質疑応答の様子

「数学アゴラ」プログラム

＜講演者＞　＜タイトル＞
A　植田 好道　教授　「阿弥陀くじから始める大学数学」
B　石井　亮　教授　「連分数を巡って」

* 講師は多元数理科学研究科の後期課程の学生です。
質問／お話の内容は自由です。
どんなことでもお気軽におたずねください。

8月8日(水)		8月9日(木)		8月22日(水)	
13:00～14:00	A 植田 好道　教授	9:30～10:30	B 石井 亮　教授	9:30～17:00	総合演習日 「知の探究講座」受講者のための講座別発表会準備
14:15～15:15		10:45～11:45			
15:30～16:30		12:45～13:45			
16:45～17:15	「知の探究講座」受講者ガイダンス	14:00～16:30	自由参加の講師*への質問時間		

「数学公開講座」プログラム

＜講演者＞　＜タイトル＞
A　植田 好道　教授　「阿弥陀くじから始める大学数学」
B　石井　亮　教授　「連分数を巡って」

10月20日(土)		10月27日(土)	
9:30～10:30	B 石井 亮　教授	9:30～10:30	A 植田 好道　教授
10:45～11:45		10:45～11:45	
11:45～12:45 (お昼休憩)		11:45～12:45 (お昼休憩)	
12:45～13:45		12:45～13:45	

G30授業参加学生の声

すでにお気づきの方もいらっしゃると思いますが、本学トップページのビデオトピックスに「G30(＊)授業に参加した日本人学生(日本語プログラム学生)」のインタビュービデオが公開されています(2018年10月4日更新)。G30講義を受講した5名の日本人学生の声を集めた、“DEEP IMPACT”と題打ったビデオです。

ビデオに出演した学生5名のうち3名が、多元数理科学研究科の古屋貴士さん(D1)、井上秀樹さん(D1)と数理学科津々直大(B3)さんです。幸運にも、そのインタビューの撮影に立ち会う機会に恵まれました。

まず、各人1分で話をまとめなくてはなりません。実際は日本語でのインタビューでしたが、英語で発信すると思っていた学生にとっては、気持ちの切り替えに時間を要します。G30講義から受けた「深部に至る衝撃」について限られた時間で話すのはさぞかし大変だろうと、加えて撮影担当の情報メディアスタッフからは『キーワードになるような単語があるといい』とリクエストもあり、新たな悩みの種が生まれてしまわないかと、わたしも緊張しました。

インタビュービデオのオープニング画像

張り詰めた空気の中、何を話そうか逡巡していた学生たちも、セルジュ・リシャール特任教授や撮影スタッフと打ち合わせをしていくうちに、気分も落ち着き、考えも纏まっていったようです。遠巻きにして眺めているだけでしたが、「作品」の制作工程は興味深いものでした。

その苦心が実り、自身がG30の講義を受けて感銘を受けたこと、感じたことを率直に語った、とてもすばらしいビデオが完成しました!

インタビュービデオはこちらでご覧いただけます。**http://www.nagoya-u.ac.jp/info/20181004_g30.html**

英語に多少不安があっても、このインタビューのように、「英語を話すことに躊躇しなくなった」「板書で理解できる」など、英語での講義受講が苦手意識の薄れるきっかけになるかもしれません。また、名古屋大学EMIプロジェクトで、G30プログラムの講義受講を希望する日本人学生のサポート体制も秋学期より試験運用されていていますので、こちらも活用してみてはいかがでしょうか。(佐藤公美)

(＊)G30(グローバル30)国際プログラムは、国籍に関係なく、外国の教育制度に基づいた教育を受けてきた学生を対象に本学で開講されています。
英語で行われる講義のみを受講して、卒業単位を取得できる教育プログラムです。　名古屋大学HPより引用(http://www.nagoya-u.ac.jp/info/20181004_g30.html)

交流の場としてのフレッシュマンセミナー

フレッシュマンセミナーとは、大学院生がチューターとなり学部生のゼミ指導を行う自主セミナーです。研究者を目指す学生に留まらず多様な学生を対象にしており、数学力を身につけること、セミナー形式の発表に慣れること, などその目的は多岐にわたります。

フレッシュマンセミナーが「数学に興味をもつ学生の交流の場」としても機能するのではないかと考え、10月に交流会を開催しました。交流会では、学部1、2年生4人が春学期のフレッシュマンセミナーで勉強したことについて講演しました。発表後の食事会では普段顔を合わせることのない学部生同士が数学の議論などを通して交流しており、学部生にとっては刺激的な機会となっていました。後期も多様な分野に関するセミナーが開講されており、交流会は今後も行っていきたいと思います。

多くの学部生・大学院生の参加により長く続いてきたこのフレッシュマンセミナーが、多元数理に根付く伝統となることを切に願います。(2018年度代表　M1 粟飯原 佳希)

交流会の様子

国際研究集会で最優秀論文賞

今年6月にポーランドで行われたArtificial Intelligence and Soft Computingの国際研究集会で、本研究科を平成28年度に修了された藤本勇希さんの修士論文に基づく英語論文が、最優秀論文賞を受賞されました。

授賞式が行われた晩餐会は、6月5日にポーランド屈指のリゾート地であるザコパネで行われ、共著者でもある大平教授が藤本さんに代わって出席され、General chairmanであるLeszek Rutkowski氏より受賞証を受け取られました。

現在、藤本さんはNTTデータ数理システムへお勤めでいらっしゃいますが、授賞式には残念ながらご参加できなかったため、後日東京で大平教授より藤本さんへ受賞証をお渡しする伝達式が行われました。

詳細につきましては **http://icaisc2018.icaisc.eu/** をご覧ください。

最優秀論文賞を受賞された藤本さんよりご感想をいただきましたので、ご紹介します。

授賞式の様子

ICAISC Zakopane
International Conference on Artificial Intelligence and Soft Computing
June 3-7, 2018
Best Paper Award
Springer
受賞証

藤本さんの喜びのコメント

論文テーマ:A Neural Network model with Bidirectional whitening

今回、修士時代からの研究の成果が、このような形で学外から評価いただけたことを非常に嬉しく思います。

論文投稿のきっかけを作ってくださり、多忙の中卒業後もご指導をくださった大平先生へ、心より感謝を申し上げます。

またこの記事が、修士時代の私と同じように、必ずしも主流とは言えない研究テーマに挑戦している多元の学生の方の励みになれば幸いです。

藤本さんのより一層のご活躍を心より期待しております。(西脇悠美子)

伝達式にて(大平教授と藤本勇希さん)

多元数理研究科へようこそ！

秋学期から新たに多元数理科学研究科に学生が増えました。そのなかの留学生のうちミャンマーの特別聴講学生2名、中国からのG30学生2名をご紹介したいと思います。今回はアンケートにお答えいただきました。みなさんの初々しさが伝わる記事に仕上がっています。（佐藤公美）

Q1 簡単な自己紹介をお願いします。
Q2 あなたの国へ旅行するなら、どこをおすすめしますか?
Q3 名古屋大学や多元数理科学研究科の第一印象を教えてください。
Q4 将来の夢は?

左から、Pyaeさん、Thinzarさん、Xinさん、Qiwenさん、Yuantingさん
（名古屋市科学館にて）Qiwenさんは2017年入学のG30学生です。

〈回答原文 英語〉

Aye Thinzar Zaw さん

A1 こんにちは!ミャンマーのヤンゴン大学から来ましたAye Thinzar Zawです、数学を専攻しています。特別聴講学生として、6ヶ月滞在予定です。

A2 ヤンゴンを訪れるなら、Shwe Dagon Pagoda[訳注1]とBogyoke Marketがおすすめです。時間に余裕のある方なら、歴史あるBagan[訳注2]を訪れるのもいいと思います。ただし、夏のミャンマーはおすすめできません。

A3 キャンパスがきれいなのに驚きました。学習環境が整っていて、やる気が出ます。多元数理科学研究科の教員やスタッフは、はじめからとても暖かく迎えてくださりうれしかったです。

A4 ヤンゴン大学で修士号を取ったら、まずは講師を目指します。数学についてもさらに研究を続けていきたいです。そして自国の発展の一助となるような、教養ある女性になりたいと思います。

訳注1：ヤンゴン中心部に存在する寺院
訳注2：世界三大仏教遺跡のひとつ

Pyae Phyo Thein さん

A1 ヤンゴン大学学生のPyae Phyo Theinです。今は多元数理科学研究科で数学を学んでいます。

A2 ミャンマーに行くなら、Baganを観光してみてはいかがでしょうか。

A3 すばらしい大学だという印象を受けました。

A4 将来は数学の教師になりたいです。

Chen Xin さん

A1 中国出身のChen Xinです。自分では楽天家で自立していると思います。これからの名古屋大学での2年間がとても楽しみです。

A2 中国は領土の広い国なので、いろいろな楽しみ方があると思います。歴史や伝統文化に興味があるならば、北京なら紫禁城[訳注3]や万里の長城、首都博物館がいいと思います。絶景・大自然を楽しむならチベット、九寨溝[訳注4]、西湖[訳注5]があります。

A3 名古屋大学にはアカデミックな雰囲気が溢れていると感じました。研究科の教員やスタッフは、みなさんとても親切です。

A4 さしあたってはこれからの前期課程での2年間を無事終えて、自分を高められるように努めます。

訳注3：現在は故宮博物館となっている
訳注4：四川省奥地にある峡谷で、1970年代に発見された秘境
訳注5：杭州市にあり、世界遺産として登録されている

Zhou Yuanting さん

A1 Zhou Yuantingです。中国からの学生です。数学が大好きで、学部生のときは数学と応用数学を学びました。わたしは、とても大らかな性格です。友人たちと語り合うのが好きです。困っている友人がいたら、何とか助けたいと思うってしまいます。普段は、アニメを見たり小説を読んで過ごしたりします。

A2 北京なら、栄光の万里の長城や威厳ある紫禁城の観光をおすすめします。内モンゴル自治区の大草原も見応えがあります。安徽省のそびえ立つ黄山[訳注6]、四川省の美しい九寨溝、江南地方の水辺都市もぜひ訪れてほしいです。他にもいろいろありますが、中国の自然風景はとにかく見事です。

A3 パワフルで総合的で厳かな大学であり、研究科であるという印象をもちました。すばらしい教員が多く、多くの研究分野を学ぶことができそうです。

A4 多元数理科学研究科で、2年間めいっぱい学びたいです。また将来は、数学の教師になりたいと思います。

訳注6：「黄山を見ずして山を見たというなかれ」と称えられるほどの名山

第16回 留学生交流イベント ～名古屋市科学館ツアー～

11月7日（水）名古屋市科学館ツアーを開催いたしました。

初の学外イベント。幸運にも前日までの雨模様から一転、秋晴れとなった当日、留学生・外国人研究員を含め大勢の皆さんにご参加いただきました。

名古屋市科学館に到着後、まずは世界一の大きさを誇るプラネタリウムへ。参加者の皆さんは名古屋では見ることが出来ない満天の星空を眺めながら、学芸員の生解説に聞き入っている様子。そして日常を忘れ美しい夜空にうっとり。50分間の解説もあっという間に感じてしまうほどでした。

プラネタリウム鑑賞後、特別に操作卓の見学もさせていただき、参加者の母国であるイギリスの星空もドームにうつしていただくというサプライズもありました。

そして主任学芸員　西本昌司氏の展示室解説。今回の留学生イベントにあわせて、理工館：6階「最先端科学とのであい」を英語解説していただきました。直径194mのスクリーンに映し出される巨大太陽像。天候に左右されやすいのですが、当日天気に恵まれたこともあり科学館屋上にある口径30ｃmの太陽望遠鏡から映し出された太陽の姿に皆さん大興奮。

名古屋市科学館にて

地球深部探査船「ちきゅう」の展示は細部にまで再現された模型船に興味津々。興味深い解説に心を奪われ、熱心に聞き入っている参加者から数々の質問も飛び交い、和気あいあいとしたそしてとても盛り上がったイベントとなりました。全面協力をしていただいた名古屋市科学館の皆様、本当にありがとうございました。留学生交流イベントは半期に1度行っています。「留学生とこんなことがしたい」「日本のこんなことを知りたい」などリクエストがあれば、是非、支援室まで。（生田裕子）

大談話会・談話会

多元数理科学研究科では、2018年度11月下旬までに5回の談話会を開催し、いずれの講演も50名を超える方々に聴講いただきました。

講演内容は以下のとおりです。

■6月13日（談話会）：
田仲由喜夫氏（名古屋大学大学院工学研究科・教授）
「超伝導体における準粒子束縛状態（アンドレーエフ束縛状態）の理論的進展」

■7月11日（大談話会）：
山田澄生氏（学習院大学数学科・教授）
「調和写像とアインシュタイン方程式 －5次元定常時空の構成法－」
杉山雄規氏（名古屋大学大学院情報学研究科・教授）
「非対称散逸系の動力学 －渋滞形成から自己駆動粒子の集団運動－」

■10月3日（談話会）：
伊藤由佳理氏（名古屋大学多元数理科学研究科・准教授／東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構・教授）
「特異点解消とマッカイ対応」

■11月14日（談話会）：
寺川寿子氏（名古屋大学環境学研究科付属地震火山研究センター・准教授）
「地震の発生における応力と間隙流体圧の役割」

■11月21日（談話会）：
下川航也氏（埼玉大学大学院理工学研究科・教授）
「結び目理論の高分子科学への応用」

ワインパーティーの様子

田仲由喜夫先生

山田澄生先生

杉山雄規先生

伊藤由佳理先生

寺川寿子先生

下川航也先生

講演者の専門分野全体の解説に始まり、講演者自身の直近の研究成果や研究動向にまで多岐に渡ってお話を頂戴することができました。大談話会終了後にはワインパーティーが開催され、それぞれ充実した時間をお過ごしいただけたようでした。異分野でご活躍される研究者のみなさまへ、今後も価値観共有の場をご提供できるよう、お力添できればと思っております。（山田美里）

ホームカミングデイ

10月20日（土）に名古屋大学ホームカミングデイが開催されました。
当日は秋晴れの中、多くの卒業生、またそのご家族の方が来訪されました。多元数理科学研究科の企画として、白水徹也教授による「大学での生活の様子」、数理学科同窓生でもあり、宇宙開発に長年従事されてきた春山幸男氏による「宇宙から見守る地球の環境－宇宙開発の成果－」と題する講演が行われました。
春山氏の講演では人工衛星の打ち上げについてや、それによる地球環境の可視化について説明がなされました。

講演でも取り上げられていた水星探査衛星が同日に、また10月29日（月）には温室効果ガスの観測衛星「いぶき2号」が打ち上げられ、非常にタイムリーな講演になりました。

世間の注目を集めた話題、それと同じ分野で本学を卒業された方がご活躍されていることは在学生にとっても励みになることと思います。（貝塚穣）

春山氏による講演

卒業生講演会

今年度で2回目となる「卒業生講演会 －考えよう 数理科学のキャリアパス－」が10月10日(水)に開催されました。数理学科・多元数理科学研究科を卒業 / 修了して活躍しているOBOGをお迎えし、進路についてどのように考え、選択されたかをお話していただき、数理学科・多元数理科学研究科に在籍する学生、及びこれから数理学科への進学を考えている学部1年生が、数理科学を学んだその先のキャリアの可能性について考える機会とするものです。

民間企業への道を選択された遠藤淳平氏（アイシン・コムクルーズ株式会社）は、「就職活動中、数学専攻の民間企業での必要性に不安を感じていたが、OBOGとの交流から仕事の様子を聞き払拭できた」と語られました。

また、研究者になられた見正秀彦氏（東京電気大学システムデザイン工学部 准教授）は、「長期戦となる教員採用までしっかりとした動機、所属、生計の計画を準備し、教育機関でのアルバイト経験が役立った」と講演されました。

学生たちと卒業生の貴重な交流の場としても今後も継続していく予定です。（吉武麻理）

遠藤淳平氏の講演の様子

見正秀彦氏の講演の様子

九十年の軌跡 ―飛田武幸先生を偲ぶ会―

名古屋大学数理科学同窓会名誉会員であった飛田武幸先生が、2017年12月29日、90歳の生涯を閉じられました。同窓会有志で実行委員会を組織し、去る10月20日に「飛田武幸先生を偲ぶ会」を開催いたしました。国の内外から90名ほどの方が出席し、飛田先生の多方面に渡るご活躍と常に若い人への励ましを忘れなかった溌剌かつ円満なバランスの取れたお人柄を反映して、会は明るく温かな雰囲気で進行しました。飛田先生が取り持つご縁により、大勢の皆さんで素敵な時間を過ごしながら、在りし日の飛田先生を偲びました。

偲ぶ会当日、ご遺族より「九十年の軌跡　～ゆらぎの中で～」と題する写真集が参加した皆さんに贈られました。（小崎和子）

「飛田武幸先生を偲ぶ会」集合写真

保険フォーラム ―名古屋大学で初めて開催―

去る10月5日（金）に「保険フォーラム」が開催されました。保険フォーラムは、生命保険分野で国際的に活躍できる人材の育成を目的に、多くの学生に生命保険の基礎知識や専門的知識を身につけてもらえるよう、OLIS(公益財団法人アジア生命保険振興センター)と大学が協力して開催するもので、現在、全国で18の大学が参加しています。名古屋大学での開催は今回が初めてで、昨年のアクチュアリー同窓会での呼びかけをはじめとして、関係方面で準備を進めてきたことが実を結んだものです。

「アクチュアリーの仕事とは」と題した講演では、職種への理解を深めることを目的とし、またパネルディスカッションでは、「アクチュアリーを目指すには」、「アクチュアリーという仕事の魅力」をテーマとして、そこへ進むために在学中になすべきこと、進んだ後のキャリア形成のあり方などについて、経験を積んだ身近な先輩が在学生向けに直に伝える絶好の機会なりました。参加した学生からは「日頃聞けない生の声が聞けたことは非常によかった」と感想が寄せられました。（小崎和子）

パネリスト　青山大氏（左）、大島光氏（右）

第7回学生奨励賞（飛田賞）鈴木正俊氏（東工大 准教授）に決定

多元数理科学研究科出身の若い研究者に対して、数理科学同窓会から贈られる名古屋大学数理科学学生奨励賞「飛田賞」の第7回受賞者が鈴木正俊氏(東京工業大学理学院数学系)に決定しました。

「大域的なゼータ型関数に対するRiemann 予想の類似の研究」に関する優れた成果を讃えて贈られたもので、10月20日（土）名古屋大学ホームカミングデイの折りに授賞式が行われました。

鈴木氏は「多元数理科学研究科での講義、セミナー、研究集会において知り合った多くの先生方のご指導や、学生の仲間同士の議論を通じて、研究するとはどういう事かを肌で感じることができたこと、またそのような環境の中で学び、研究できたことは、私にとってとても幸運なことでした」と受賞のよろこびを語りました。飛田賞の由来となった飛田武幸先生は同じ岡崎高校の大先輩であることがわかり、同日開催された「飛田武幸先生を偲ぶ会」では、殊にそのことに触れ、「同じ郷土、同じ高校出身であることをとても誇らしく思います。一人の後輩として飛田先生の御冥福を心からお祈り申し上げると共に、先生のお名前を汚さぬよう、この度の栄誉を糧に、今後も研究・教育に全力を尽くす所存です」と挨拶されました。（小崎和子）

鈴木正俊氏（中央）

世界にはばたく数理科学人材の育成のために ―名古屋大学特定基金　数理科学学生支援事業―

将来世界を舞台に活躍する数理科学人材の育成、およびそれを実施するための教育研究環境の整備のために、数理科学学生支援事業が創設されました。

数学・数理科学に対する諸科学や産業からの期待・要請が強まる中、それに応え発展を担う人材や、諸科学や産業との連携によって社会の課題を解決し、新たな数理科学を創造する人材を養成し、幅広く社会に貢献することを目的として創設されたものです。

事業内容、税制上の優遇措置、ご寄附いただいた方への特典など、詳しいことは、多元数理科学研究科のウェブページ
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/kikin/
をご覧いただき、皆様のご協力をお願いいたします。（小崎和子）

学生支援事業新設

多元数理科学研究科より

入試情報

名古屋大学大学院多元数理科学研究科博士課程

前期課程（第２次募集）　2019年 2月6日（水）

後期課程（冬期募集）　2019年 2月7日（木）

願書受付期間

2019年1月4日（金）～2019年1月17日（木）
（但し土日祝日を除く）

お問い合わせ
名古屋大学大学院多元数理科学研究科教育研究支援室
電話: 052-789-2835
E-mail: exam19@math.nagoya-u.ac.jp

オープンキャンパス

8月8日（水）・9日（木）・10日（金）の3日間にわたり、名古屋大学OPEN CAMPUS 2018が開催されました。

8月10日（金）には数理学科の企画として、「大学で学ぶ数学についての紹介と質疑応答」と題してプレゼンテーションを行いました。昨年度に引き続き今年度も多数の高校生、保護者の参加があり、計3回の講演で参加者数は述べ240名となりました。

プレゼンテーション後の個別質問では在学生有志・教員がきめ細かな対応を行いました。高校生は列を作り、熱心に質問をしていました。会場の外にも在学生が「現代数学研究」という講義で作成した自主研究ポスターが掲示の展示スペースが設けられており、こちらも多数の参加者が足を止めていました。

今回のイベントにより高校生の数学科への関心が高まり、ゆくゆくは入学につながってくれたら、と願います。（貝塚穣）

プレゼンテーションの様子

数理学科説明会 10月31日

理学部1年生は、1年終了時に希望や成績などにより各学科への配属が決定します。2年次以降は、各学科に分かれてより専門的な科目を受講します。その学科分属に先立ち、数理学科説明会を行いました。教務委員長より、進級後の具体的なカリキュラムや学習環境などを教務委員長作成の映像をもとに説明されました。また数理学科4年生3名が、数理学科へ進学後の就職・教職・進学についての体験談を講演しました。

説明会後に開かれた懇親会では、参加学生が数理学科の教員や先輩の学生たちと和気あいあいとした雰囲気の中で、歓談している姿が見られました。（大野由美子）

懇親会で歓談している参加者たちの様子

就職進学説明会 10月10日

数理学科3年と多元数理科学研究科前期課程1年の学生を主な対象として、進路に関する講演会を行いました。講演会では、多元数理科学研究科の教員、就職相談室の教員より、進路全般の現状などが情報提供されました。また、実際に就職活動を行った学生や教員採用試験に合格した学生、多元数理科学研究科の前期課程・後期課程に合格した学生より、それぞれの進路に至るまでの流れや対策など、ポイントを絞って体験談をお話しいただきました。

進路情報を閲覧されたい場合は、多元数理科学棟2階の進路情報室をぜひご利用ください。（大野由美子）

教職に関する体験談の講演風景

教育研究支援室より

今年度から「少人数クラス内容報告（中間まとめ）・講義内容要約」などの提出方法が紙媒体からNUCT（Nagoya University Collaboration and course Tools：教育学習支援システム）へのアップロードに変更になりました。

アップロードの方法は、レポートをNUCTに提出をしたことがある方は同じ方法です。学生のメリットとしては、印刷の手間が省け、提出期間中であれば自分のタイミングでいつでも提出でき、提出したかどうか、また提出日時の把握もできます。先生方としては、提出・未提出が一覧で確認できるため提出状況の把握が容易です。

さらに、先生も学生もNUCT上でレポートを管理することができます。修士論文の提出も同様になりますので、やり方の案内をよく読み、間違いのないように提出をお願いします。もし提出についてわかりにくい点がありましたら、教育研究支援室へお尋ねください。（安井秀美）

編集後記

最近「their」が単数でも使うことになったという記事を見ました。昔はhisにherは含まれるというのがルールでしたが、Feminismの影響でhis or herとなり、それが面倒なのでhis or herの代わりに性別に関係なく使える単数形の代名詞としてtheirが使われるようになったらしいのです。生きている間に学校で習ったことがどんどん変わっていきます。数学も時代とともに常にアップデートされていくのでしょう。学生が黒板の前で楽しそうにたくさんの記号や数字を書いて議論しているのを見ると、数学の未来は明るいなと思います。日本の将来を担う数学者の卵が、多元数理科学研究科から多く育つことを願います。　（西脇悠美子）

名古屋大学 大学院多元数理科学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
TEL (052) 789-2835　FAX (052) 789-5397

企画編集　教育研究支援室

これまでに発行されたNewsletterのバックナンバーが
多元数理科学研究科ホームページからPDFファイルにてダウンロードいただけます。
Newsletterバックナンバー
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/archive/newsletter/